

事業名	特定疾患対策費			調査番号	52
細事業名	難病患者地域支援対策推進事業費	財務コード	091406		
担当部課室	福祉保健 部 健康増進 課 難病 担当 (内線)	3502			

I 事業の概要

実施期間	始期 H10 年度 ~ 終期 年度	
実施主体	県(直営)	
目的	だれ(何)を対象に	その対象をどのような状態にして
	難病患者及びその家族	日常生活や療養上の悩み、疾病等に対する不安の解消を図る
結果、何に結びつけるのか		
安定した療養生活の確保、患者等の生活の質の向上		
内容	<p>患者等の療養上の不安解消を図るとともに、その実態に応じたきめ細やかな支援のため、保健所を中心として地域の医療機関、市町村等の関係機関との連携のもと適切な在宅療養支援を実施し、難病患者の安定した療養を確保する。</p> <p>・在宅療養支援計画策定・評価事業・対象患者別の在宅療養支援計画を策定し、その実施状況の評価を行う。</p> <p><支援の内容></p> <p>医療相談事業、訪問相談・指導事業 等</p>	

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31(R1)年度	R2年度	
活動指標	在宅療養支援計画策定件数	目標	401	409	440	461	427	358	358
		実績(見込)	197	450	527	696	1,031	800	
		達成率	49.1	110.0	119.8	151.0	241.5	223.5	
		達成区分	c	b	b	a	a	a	
成果指標	在宅療養支援計画評価件数	目標	221	157	360	421	556	445	
		実績(見込)	164	195	261	509	833	667	
		達成率	74.2	124.2	72.5	120.9	149.8	149.9	
		達成区分	c	a	c	a	a	a	
決算(予算) 単位:千円		256	208	190	194	254	499	492	

III 事業の評価(平成30年度の業績評価)

活動指標	a	評価 ・個々の患者等の実態に応じたきめ細やかな支援を行うためには、その実態に合わせた支援計画の策定が必要であり、十分な実績をあげている。 ・H31(R1)から住所地在甲府市の患者に対しては、甲府市の保健所で支援を行うことになったため、目標数値が減少している。 ・対象者への適切な支援の提供のためには、支援計画について適宜評価を行い改善を図る必要があるが、実績からも成果をあげている。 ・H31(R1)から住所地在甲府市の患者に対しては、甲府市の保健所で支援を行うことになったため、目標数値が減少している。
成果指標	a	

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。
 ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

IV 見直しの必要性(令和2年度に向けた改善等の考え方)

関係与の必要性	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い	<input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる	<input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input checked="" type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input type="checkbox"/> その他		
有効性(成果向上)	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能	<input type="checkbox"/> 成果向上が可能	<input checked="" type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない
	説明	指定難病患者のうち支援が必要な患者数に応じて支援を行っているため		
見直しの余地	判定	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある	<input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他		
その他	説明	難病患者等の病気の種類や病状等は千差万別であり、対象者に合わせた専門職による適切な支援が不可欠であり、業務を検討する過程についてこれ以上の簡素化はできない。また、これらの業務を行政に代わって行う団体もないことから、見直す余地はない。		
見直しの必要性	無	難病患者等の地域における安定した療養支援においては、対象者に合わせた専門職による適切な支援が不可欠であるため、事業の継続は必要。		

V 見直しの方向(令和2年度当初予算等での対応状況)

現行どおり	説明
-------	----

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、IV見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがなければ「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。